

加茂里山通信

平成26年
新年号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者 榊原義久
編集長 征矢貴造

中房総国際芸術祭いちほらアート×ミックスも、いよいよ3月21日から開幕です。そこで、11月に発行した前号からの進捗状況を紹介いたします。



サポーター勉強会の開催

11月8日に、サンラザ市原で1回目のサポーター勉強会を開催しました。

この勉強会は、既にサポーターとして活動に参加している人やこれからサポーター活動に参加しようと思っている人に、「いちほらアート×ミックス」についていろいろの知識を身につけてもらうための開催したものです。

当日は、北川ディレクターがアート×ミックスの概要の説明とサポーターに期待することと話し、サポーターには「アート×ミックス」の中心はサポーターです。皆さんが、おもてなしの心を持って取り組めば、市原は最高のオアシスになる。自らもこのイベントを楽しんで欲しい」と活動に理解を求めました。また、実際にサポーター活動に参加した3名が活動の喜びや苦労話を披露し、またサポーター登録をしない参加者に、参加の呼びかけをしていただきました。

12月11日には2回目の勉強会を東京で開催し、都内や市外にお住まいの方々にも、アート×ミックスへの参加を呼びかけました。

いちほらアート×ミックス

開催迫る



小湊鉄道 ラッピング列車

いちほらアート×ミックスのPRのために、小湊鉄道の車両にイベント名や開催期間をラッピングした列車が昨年11月末から運行しています。

今回のアート×ミックスのロゴマークは、日本デザインセンターのデザイナーである色部義昭さんが、小湊鉄道の車両のラインをイメージしてデザインしたものです。

毎日、五井から養老溪谷駅を往復する小湊鉄道にラッピングをすることで、市民の皆さんや市原を訪れた方々に目をとめていただき、いちほらアート×ミックスを知っていただきたいと思います。

100日前の記者発表会



法 交通計画などのアート×ミックスの全概要を北川ディレクターから説明しました。

会場には、テレビ局や新聞記者、雑誌編集者などをはじめ、今回参加するアーティストも多数出席し、用意した席は全て埋まってしまふほど盛況でした。

まだまだサポーター募集中

開催までいよいよ100日。いちほらアート×ミックスは、参加して楽しむ芸術祭です。これからアーティストによる制作が本格的になり、サポーターのお手伝いが必要。



取材を受けるのも仕事です

事務局長は、1000人の登録を目標にサポーターを募集しています。1月15日現在では、約550名の登録をいただいています。皆さんぜひ登録してアート×ミックスに参加してみませんか。

問い合わせ先
市原市経済部国際芸術祭推進室
TEL 0436・50・1160

加茂の初夢

加茂村のロマン

自慢の田舎料理に腕をふるいたい人がたくさんいます。春は山菜料理「ふきのとう味噌」ひとつとっても作り方はいろいろです。一度茹でたら水にさらして刻み、味噌、みりん、砂糖、練り上げる人もいれば、生のまま刻んで油で炒めて、みそ・みりんを仕上げた人、すりゴマとみそ・砂糖を入れてすり鉢で和えただけ、茹でてさらしたときの汁から汁まで、酢の人もいます。ふきのとうの佃煮もあつさり煮上げる人、保存がきくように煮詰める人・・・大体自分の作り料理が一番美味しいと思ってるので(これを手味噌味噌という)メニューを決めるだけでも大変です。

「〇〇さんのピーナツ」 「〇〇家の柚子大根」 「聖護院大根の酢漬」とか一品ものばかり並べるのもいいと思います。 「〇〇家自慢の漬物とおひろひ・豚汁」が看板メニューで、お飲み物は麹の甘酒、柚子茶、生薑湯なんてどうでしょうか？

昔は冠婚葬祭を自宅でおこない、親戚近所の人が手伝いに行くのが、年長者にいろいろ教わることが出来たのだと思います。巻きずしめは一番奥でずし巻をして、若手は外の井戸で野菜を洗う、中堅は天から揚げという具合、最近では寄せも少なくなり、決まりごとを伝える機会も減り、まして料理の手ほどきも迷惑かられる風潮です。



レ스토랑

なにも町会だひとは欲しいですね。自慢の料理を是非教えてください。

(天曾根R里山通信員)

加茂の初夢

昨年のこのコーナーで、加茂地区の過疎化の歯止めをかける地域の活性化を促すために、この地に多くの芸術家がやってくる地域に定着し、地域に根ざした活動をしてほしいことを書きました。この1年で実はそのことが少しずつですが進みつつあると感じるようになりました。他の地からこちらに来てアトリエを構えたり、工房にて制作したり、活動している人もいます。さらにアート×ミックスの取材の中で、アート×ミックス期間だけの活動ではなく、もっと長くこの地を活動拠点にしたいと言っている人もいました。アート×ミックス期間を通して訪れた皆さんの人の中に、この地に住み活動したいと考える人も出てくるのではないかと考えます。いろいろな作家・芸術家がどんどんやってきて定住しそれぞれの活動を活性化させると、その作品を見たり体験したりする人たちがあつてくるでしょう。さらにそれぞれの友人や知人も当然あつてくるでしょう。中にはこの辺に住みたいと考えてるようになるかもしれません。一つ一つの個別な動きがだんだんに醸成され、大きなうねりのようになれば派生的に必要な店や喫茶や食事どころ、それに発表の場も生まれるでしょう。そういう意味ではアート×ミックスの開催は大きなきっかけになります。

園芸道のインターがすぐ近くにあり、東京にも成田にも1時間で行くことができ、広いダム湖と里山の広がりを持つこの地域は、ここに住む私たち以上に都心部にいる人々には魅力的なところかもしれません。

このことを更に加速させるために、発表の場を提供してはどうかと考えます。廃校になった学校が有り、スペースはいくらでもある。こゝを無償で発表の場にしてあげたら、発表の場を求めている若くやる気のある作家たちにとつては願ったりのではないでしょうか。こゝで発表し、こゝに都心から人を呼ぶ。そういう発想で物事を考えているのではないかと考えます。多くのいろいろな企画展がほとんど東京で行われそれを見つために東京に行ったりしますが、逆に東京からこゝに人を呼ぶ、要はアート×ミックスと同じような構想を常設的に作り出して一つの形にしてしまえば、ゴルフや釣りのお客さんだけでなく、第二の客層の人たちを呼び込めるのではないかと考えます。

私たちも積極的に関わり、加茂芸術村のプロジェクトを進められたいと思います。

(征矢山通信員)

みんなの力で

長期戦略ビジョンの取り組み

加茂地区がかかえる様々な課題に対して、これまでは町会長が行政にお願いするという形がほとんどでした。しかしながら加茂地区の町会長は一年交代であり、問題は送り継がれることが多く、そのこと自体を多くの住民は知らないままであるというのがこれまでの実態ではなかったかと思えます。ここに住民が自分たちが、自分たちの問題をあぶり出し、それをどうしようかという方法で解決につなげていったらよいのか、まずはこの視点から10年先を見据えた対策を考えていくこととして、一昨年に当時の町会長の人たちの呼びかけで加茂地区長期戦略ビジョンが立ち上がりました。様々な分野の人たちを取り込み、それぞれの問題意識を洗い出し、それを4つの分科会で手分けして対策を考えてきました。そしてほぼ2年をかけてそのビジョンをまとめることができました。年度内にはそれが発表され、加茂地区のみんなが目にするところとなります。

具体的な課題としては次の通りです。交通弱者対策、有害鳥獣対策、高齢者対策、地域医療対策、良好生活環境確保対策、空き家対策、教育環境整備対策、就労場所確保対策、人口現象対策、耕作放棄地対策、学校跡地活用対策、地域資源開発対策、観光地整備対策、道路改善対策。

現状はどうか、どのような対策が有効なのか、それらを時間をかけた検討会で話してきました。学校跡地の活用問題に関しては、この間に高滝地区から始まって各地域でそれぞれの学校跡地検討委員会が立ち上がり、地区の問題を地区の町会長と別の組織で検討するようになりました。この動きはあつちつとこれまでになかったことで、学校の跡地をどうするかという具体的な問題が目の前に迫った点を差し引いても、地域の問題を地域の人間が積極的に考えるという点で、加茂地区においては画期的なこと

だと思えます。

ウェルカモンの起ち上り

長期戦略ビジョンの分科会を進めていったあき陰で、ビジョンを示すだけでなくいかにこの声が上がってきまいた。問題点と対策を提示するだけで終わりのなかに、きき手が検討を重ねていったメンバーの中に徐々にわき上がってきたことでした。それを具体化するにはどうしたらよいのか、せつと時間をかけて考えたことを発表するだけでは何も進展しない、問題点は何も変わら



信発からの山里

区で活動している諸団体や地区外の有志の方々を協働しながら取り組んでいこうとするものです。

人の活性化こそが

加茂村の単位であつたなら、これに取組んでいたであろうと思ふことが、国分等の市役所に話を聞いていき、行政の判断を仰がなければならぬという構図がこれまででした。行政の側からすると市原市の中で最も手のかからないところが「ちばら台」で、最も手のかかるところが「加茂地区」であるという話を聞いたことがあります。お願いして判断を仰ぎやってみようという構図では、いつまでも手のかかる地域のままでしょう。

うし、なによりもいつまでも問題が解決しないか、問題解決が長引くという結果になってしまつてしょう。自分達で取り組めることに、地域の住民が協力しながら自分たちの組織をもつていこうとしたり、そのスピードは全く違つたものになつてくるはずですが、そしてなによりも、地域の人間が自分たちの問題解決のために動き始めることそのものが、実は一番大事なことです。ではないかと考えます。地域の活性化とよく言いますが、地域の活性化とは地域の人間の活性化に他ならないからです。これを合意したと話をしたところから、た者同士が話をするようになり、会議を重ね、行動に移す、そのことがまさに活性化していることだと思ひます。

そういう意味で先にあつた学校跡地の検討委員会の活動も、同じように地域の活性化に他ならないと思ひます。圏外を通り、インターが出来、交通事情がとても良くなり、国内二番目の国際空港が行われるこの年に、各地区、また加茂地区全体で問題解決のための組織が出来て機能するというのは、いいタイミングであり必要だと感じます。この加茂地区が少しずつより良い方向に向かっているのかどうか、すべて私たちの取り組み次第です。

加茂の資源発掘作業は楽い

長期戦略ビジョンの会議では問題点を討議していったわけではなく、加茂の資源とも呼ぶべき事柄、神社仏閣などの建物、自然景観や人の手についた景観、料理や歌なども拾ひ上げてみました。大和田の光蔵寺の波の伊八の彫り物など実に見事です。見たことのない人は是非、覽に

なつて下さい。また自噴の井戸などは昔は当時の光景になつてはいるかもしれませんが、他から見れば水があふれ出ている貴重な存在です。見落とされがちな山はかりですが、実は山は低い山の連なりは日本ではあまりないということでした。また加茂のことを知らないということも今回の発掘作業思い知りましたが、楽しい作業でした。

フェスティバルが始まる 準備は進む

3月21日から始まる中津川国際祭「いちばらアー ト×ミックス」も、もう間近です。サポーター登録をして入る、いよいよに人手が必要で、それは何の手伝いなのかというところがわかります。その情報により今と今とが進行しているのかということもわかります。しかし、その情報が入つてこない人々には、何が進められているのか、全くわからないままです。この加茂地区の人々へ、アート×ミックスって一体なんだと言つたり、いつからなんだと言つたりもたくさん聞いて、ましてやこんなことが行われ、今どんな準備が進められているのか全くわからない人がほとんどではないかと思ひます。千歳原単位のある会館で他の地域の人たちに聞いてみたところ、やはりほとんどの人がその存在すら知りませんでした。外へ向つての宣伝が遅れ、またまた浸透していかないことを考えると、後2ヶ月と迫つた今、効果的なそして積極的な宣伝が必要と感ずります。

芸術祭は何のために

ところで、この芸術祭は何のためにやるのか。芸術祭のための芸術祭なのか。そのことについては行政サイドもディレクターの北川ワム氏も芸術祭そのものが目的ではないと述べています。これを二つの起爆剤として、地域の活性化を図ること、お年寄りが希望を持つてやってくることを目指すことも述べています。地域の活性化、すなわちそこに住む人たちが自主的に目的を持って動き始めること、この芸術祭をきっかけに人と人が出会い、つながり、一緒にものごとを考え、行動し、楽しむ、そういうことがなければこの芸術祭の意味するところは薄れてしまつて、そう解釈することも出来ます。

市原市とりわけ中心の会場となるこの加茂地区にとつては大きなチャンスであると感ずります。このチャンスは生かされなければ意味がない。活用しなければ今までのままの、あるいは更に進行したかすかすの課題を抱えた過疎の地となつてしまつてもいいかもしれません。まずはこのチャンスを生かすために参加して楽しむことではないかと考えます。これはフェスティバルでありお祭りなのですから、どんどん参加して自分たちが言葉にしたいのではないかと思ひます。そして他からやってくる人々にはこの地のことを色々と教えてあげ、案内してあげ、こちらから話しかけなくても、向うから話しかけてくることもあり、聞かれないことも出てくるので、加茂の話を聞ける限り教えてあげ、教えるうちに自分たちが加茂地区のことを本当に理解しているのかもわかってくる。人に教えることは実は最高のの学習である。理解は認識を改める。それが行動へとつながれば、まず自分が活性化します。そういう人が一人生まれ、二人生まれ増えれば、自分たちのおかれている状況をより良い方向へと向けようとする思考と行動につながるのではないかと、そう考えます。もつと単純に、やってくる多くの人々を相手に顔笑ははじめたり、駐車の案内をしたり、作家の手助けをしたりでもそれはやはり参加したことになります。芸術祭がこの地であったら起りえないことなのですから。

フェスティバルが始まります。昨年の9月に種蒔きした、まるで時間をかけた仕掛けの花火のように、菜の花の期間中に見事な花を咲かすでしょうか。又、昨年は全くダメだった桜は春の陽光の中で輝くように咲き誇るでしょうか。昨年以上に飯沼の境界は人であふれるのでしょうか。加茂地区の最も華やかで色めき立つ時期に開催されるフェスティバルにどのくらいの人たちがやってくるのか予想だにできませんが、一度来た人間が誰かを連れて来たやつてくる、そういうお祭りであつたら最高ではないかと思ひます。

(征矢山通信員)

キムチゲや石焼ビビンバをはじめ
韓国家庭料理が評判！
美味しい料理とお酒でカラオケ三昧

居酒屋
大ちゃん 2

市原市迎田229-3
TEL 090-2629-9600

第四〇回高滝湖マラソン 今年も大盛況スタート

今年で40回目を迎える市原市民マラソンが高滝湖をメ



寒い朝なのに湯気が立ちのぼりそう



空気の澄んだ冬空でした

イン会場に開催されました。快晴無風の好天に恵まれた1月1日(土)には北は青森から南は福岡まで、約2400名の健脚自慢が集まり、高滝湖をめぐる風光明媚なマラソンコースを楽しんでいたようです。運営上、参加者制限を設けており、募集枠はすでに一杯になる人気ぶりです。

(大曾根 里山通信員)

こつもど紀行 栗山・高滝湖の冬

皆さん東北大震災の時の計画停電を覚えておいででしょうか。電気の無い生活は今は考えられませんが、短い期間といえども、現実起こったことです。あの当時は臨海部の工場操業を止められ、病院も止められ、という事でエリアも限定的でしたが、ゴルフ場は予定が立たないこともあり休業を強いられました。もっとも大震災でゴルフ場はつぶれたという事もありましたが。

さて、岡山県の山間部に真庭市という人口5万人弱の市があります。伝統的な林業が産業の柱になっており、大小の差はあるものの、多くの製材所が市内で営業されています。

「存し」とおり、製材所では丸太を待たずに加工します。この時、端材や木くずが大量に発生し、これまで、その処分だけでも数億円の費用がかかっていたそうです。

そこで決断したのが木くずをエネルギーに変えることです。木くずをボイラーの燃料にした火力発電施設を作り、発電を始めています。今では市内の11%にあたる電気をこの発電所で賄っています。小指の先ほどの粒状に加工したペレットもストーブの燃料として使われています。市営の温水プールもボイラーもペレットを燃料にしています。最近ではビルハウスのボイラーにも使われるようになっています。

これまでは、電気は電力会社から買うもの、ボイラーは重油で動かすもの、ストーブは灯油やガスでつけるもの、と分けていた地域が、エネルギーを生産し始めたわけです。原料は地域の邪魔者と思われていた木くずです。

木くずの処分は数億円かけていた地域が電力を売って、かなりの収入を得るようになりました。私の記憶が確かなら年間差引き8億円の効果があるそうです。

翻って見てみれば、南市原の里山にはくさんの木があります。手入れがされなくなり、毎年多くの花粉を飛ばす杉は障害物にもなっています。川の上には枯木が横たわり、真竹が生えています。竹山も手入れが行き届かなくなり、薪を拾って歩ける様な竹の生え方は程遠くなっています。また、「これが燃料になって発電できた」となどというのには遠くでしょう。28万市民全体に行き渡らせることはできなくても、加茂や南総の燃料の幾分か負担でできる気がします。すでに真庭市でできている事が出来ない理由はないはずです。山に人が入る様になれば、里山も復活していきます。イノシシ対策にもなるのではないかと。

(大曾根 里山通信員)

そんなことにも思いが膨らみます。これまで邪魔者と思っていた木や竹が原料として価値を持つたら、貴重なものになってくるような気がします。今年の初めにそんな想像を膨らませておりました。本年が皆様に与えてくれる良い年でありましたように。

(大曾根 里山通信員)

塩分控えめ長寿の秘訣

脳卒中や心臓病に悩まされた長寿者が食事見直し草の根運動を開始して、平均寿命が男女とも1位になりました。「塩分控えめ長寿の秘訣」は減塩運動の合言葉になっています。

塩分を1日10g以下にしましょう」と言われていますが、実際どれくらいの塩分をとっているのでしょうか。

朝食：ご飯・みそ汁1.2g・鰯の開き1g・大根おろし0.6g・梅干2g。

昼食：天ぷらそば6g・みかん1g・白米漬0.4g。

夕食：ご飯・鶏肉と大根唐辛子の煮物1g・酢の物0.3g・白米漬0.4g。



塩分が多いのは漬物です。漬物は汁を半分残す、みそ汁も具沢山にする、塩分控えめになります。漬物は白米漬やかぶのみ漬など、柚子の香りをアロマスしてしまえば、味見をせずに干物や白米漬に醤油を掛けてしまう人がいます。減塩醤油にすると塩分は半分になりますよ。

脳を健康に保つ生活のポイント

ワカメのような海藻を忘れずに

カルシウム源の牛乳も乳製品をとる

いもなどの根菜、穀類を欠かさない

青魚(マグロ・鰹)と鶏肉を交互にとる

菜の花・アスパラ・ピーマンを交互にとる

大豆製品のレシチンで神経細胞を守る

一文全目をつなげて

「わ・か・い・あ・な・た」

生活習慣病を防ぐ食事は脳にも効きます。

目指せ健康長寿!

(大曾根 里山通信員)

起床と就眠の医学

起床時間、就寝時間を一定にして、若い人も老人も薬はなるべく使用を控えた方がよい。警察官のピストルと同じ、持っていないと使えない。

人間の睡眠は6時間がベスト。眠りすぎても人生の競争に負ける。受験生も6時間、決めた時間に寝て決めた時間に起きる。

若いみなさんに注意したいことがあります。翌日の試験が心配でも、前夜に就眠剤や精神神経安定剤を使わないこと。解答できる問題も解答できないことがあります。頭の働かなくなってしまうかもしれません。

又、老人が眠れないといっても眠り薬や精神安定剤は与えない方がよい。ボケます。認知症を招く恐れがあります。ボケは発症を遅らせることは出来ませんが、ボケてしまった認知症は直せません。

(西東 駒太郎通信員)

福島にタケノコを!

2011年の3月の福島原発事故からもう3年が経とうとしています。当時、市原のタケノコと椎茸から基準を超過放射能が検出され出荷停止とされました。その処置も昨年解除されました。しかしながら、福島ではまだそれどころではないところがあり、目の前のタケノコを捨てなければならぬ状況があります。

春先のタケノコは初物として最初はよく食べますが、少しするとどんどん出てくるタケノコの供給過剰状態になります。ちょっと見ぬ間に青竹となってしまうのです。そんなタケノコを福島に持つて行ってやったらと考えた人間がいます。あ、朝、あ、そ、こ、い、つ、せいにタケノコを持つてきてもらい、それをそのままに福島まで運んでしまおうというものです。

その時には加茂地区みんなの協力を願っています。



(征矢 里山通信員)

おたからや 市原五井店

TEL 0436-79-6214

市原五井店限定企画!!
当店通常買取価格より

貴金属・ブランド品
買取金額 **10% UP!!**

即、その場で現金買取いたします!!

「これ売れないかな?」なんて思ったお品に思わぬ高値が付くこともございます。査定は無料ですので、どんな小さなことでも、まずはご相談ください。

金・プラチナ・貴金属、ブランド時計、バッグ、絵草切手、中国切手、古銭、骨董品、記念金貨、絵画など...

おたからや 市原

〒290-0024 千葉県市原市根田1-1-3
営業時間/10:00~18:00 定休日/木曜日 P有
占術商許可 千葉県公安委員会 第411260001617号

市役所通り沿い

人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL <http://www.sugita-group.com/>

おめでとう！ 加茂の新成人

加茂地区の成人式が1月12日（日）に加茂公民館で行われました。今年の新成人の参加は32名。市原市全体でも3千人を割り込む2886人となっており、少子化の影響がうかがわれます。

今年は市長の代理として、三橋副市長が初めて加茂会場にいられた。昨年は八幡、一昨年は辰巳と、比較的多くの参加者がある会場とのことで、「ヤジがいくつか出てました。普通のことになりませんが」と控室で他の会場の様子を話しておられました。

祝 加茂地区成人式



晴れて大人の仲間入り がんばれ！

「加茂の成人式ではヤジは出ませんから、式辞の他に自分の挨拶も入れてあげてください」とお願いして式に臨んだところ、やはり加茂の新成人、私語も無く、機嫌をいじめる人もいません。きびやかな晴れ着を身につけた新成人たちは、すでに大人の風格を感じられました。三橋副市長もその様子には地域の誇りを感じられた様子で、アート・ミックスへの積極的な参加をお願いする言葉を添えながら会場を後にされました。

（大曾根 里山通信員）

魚屋の戯言 年取り魚

読者の皆様、明けましておめでとうございます。

古くから魚に慣れ親しんだ我々日本人には正月の食卓に欠かせない魚があります。年取り魚とも年越し魚とも呼ばれているようで、青森の鱒、宮城県のなめたけを初めとして吉次鯛、塩鱈など地方ごとにそれぞれ特色があつて様々な魚がそれに当てられています。ごきく大雑把に言えば千葉を名乗る東日本一帯では鯛とまぐろ、北陸から関西、九州の西日本ではブリが正月の魚として親しまれています。鯛は川で生まれて一度大海に出て産卵のために再び同じ川に戻って来ることから、お世話になった方に「二度はあなたの手元から離れる事もありませんが成長して必ず帰ってきます」という意味を込めて新巻鯛を送る習慣が生まれたと教わりました。ブリは成長するに従って名前が変わる出世魚なので縁起をかつぐ事とその美味しさが人気の理由だと思ひます。ブリの産地の富山県氷見市ではその年に結婚した夫婦の新郎の親が新巻鯛の妻家にブリを丸ごと一本贈り、贈られた家では捌いて身身をお返しする風習があるそうです。両家で一本の魚を分け合つてお付き合いをより深めるこの話を聞いた時は気持ちが暖かくなったものでした。

鮭は北海道から関東にかけての東日本の年取り魚の代表選手です。私が子供の頃には暮れから正月にかけてこのお宅でも神棚から新巻鮭がぶら下がっていたものでした。当時は室内の暖房も十分ではなく、塩漬にされた鮭は冷蔵庫に入れないまでも一週間くらいは平気だったのです。さすがに今は冬でも部屋が暖かいので、冷蔵庫に入れておかないとあつと言つて間に変質してしまうので下げるのは箱だけにしておきましょう。

新巻鮭を頂いても切るのは困る方もいらっしゃるようで、十年ほど前からは既に切り身にしたものを一尾の姿に戻してある鮭も出回つていて便利になったなあと思つたものです。そのまま焼いて食べるのに飽きたら粕汁にするとか塩分も和らいで大変美味しく食べられます。酒粕と、白菜を始めてとする野菜の甘じつと鮭の相性が絶妙でついおいおいと重なること請け合いです。地方によって年取り魚が違ふという事は、これだけ交通手段が発達して人や文化の行き来が盛んになった現在でも流通がまだ発達してなかった頃の名残なのではないでしょうか。生まれ育った土地で食へたものはとても簡単には変えられない事なんだと思う正月の朝でした。

（鈴木里山通信員）

宝船プレゼント

今年も読者の皆様に、宝船のプレゼントです。

「大当たり賞」 3名様
「お年玉賞」 7名様
「超目玉賞・復賞」 6名様
計16名様に当たります。
みなさん奮つて応募ください。

住所・氏名・電話番号と

里山通信への「意見・感想」を添えて「宝船希望」と明記してハガキで応募ください。

290-0081

市原市五井中央西1-20-25

市原商工会議所

「加茂里山通信宝船プレゼント」係まで締め切りは2月8日 当日消印有効
当選の方には直接ご連絡いたします。

賞品の引き渡し式は

2月16日（日） 午前10時

月崎の商工会議所加茂支部前で行います。

取りに来られない方は無効になりますので「了承ください」。

当選確率はとても高いです

ふるつて応募ください

宝船プレゼントの協賛店・協賛企業は次の通りです。

かずさラーメン

角屋商店

川口屋

杉田建材

鈴木魚肉店

太陽工業

高山商店

田奴久

林商店

旅館加茂城

次回は4月25日発行予定です。

寒中お見舞い申し上げます

お買い物は
地元の商店で！

市原商工会議所

会頭 榎原義久

市原商工会議所加茂支部

支部長 小茶常夫

役員一同

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。
メールでも受け付けます。

紙面及び記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。

市原商工会議所

0436-22-4305 担当 渡辺

Eメール watatade@oci.or.jp

編集後記

・私達、加茂里山通信のメンバーと、伝心柱を中心とした牛久のメンバーとは年に一回飲み会を行います。12月25日と決まっています。この日は佐久間明前編集長の命日の近くで彼の二重を題材にしたライヴとあります。どうしてこの日なのかわかりませんが、南原で地域情報誌を出し続けている者同士、声には出さないエールの交換のようなものかなと思つています。
・さていよいよ芸術祭が始まります。次の号の出る頃は春の盛り、さらに芸術祭の真つ最中ですね。間違いない活気ついていることと思ひます。この紙面でお伝えできればと考えています。この里山通信もつてくる人たちの目に触れるところに置きたいのです。他からやつてくる人たちの目にも読んでいただきたいと思ひます。飾ることのない、この加茂の姿を見てもらいたいと思ひます。内容の充実が求められます。
・宝船プレゼントは当たる確率の高いものです。プレゼントも豪華です。多量の読者の意見を聞きたいと思ひます。たくさんのお返事をお待ちしております。

（征矢里山通信員）

房総・養老溪谷の
地酒お土産は
養老溪谷駅前
角屋商店
養老溪谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

皆様と共に歩む観光
ワカサギのシーズン真っ盛り
ぜひお出でください
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277